

笑顔が溢れる地域を作りたい

町田第二地区町内会・自治会連合会 会長 野澤 滋亨
副会長 中 一登



町田市の町内会・自治会は全部で308団体。加入世帯率は約55%です。これを10地区に分け、町内会・自治会連合会という組織で束ねています。今回は中町、森野、旭町、本町田と南大谷の一部34団体、約9千世帯が加入する町田第二地区の会長と副会長にお話を伺いました。

今、町内会・自治会の存在が見直されている。それは阪神淡路大震災の際に町内会・自治会が機能していたかどうかで対応や復旧の違いが顕著だったことがその後の調査で分かったからだ。東日本大震災でも地域の絆の大切さが叫ばれた。市民の連帯が、「コミュニティ」が被災時に大きな力になる。



副会長の中一登さん

The Machibito — Chitaki ni Ikiru

ゴミ拾いが徹底され、街が美しい旭町二丁目町内会。このエリアは10年以上、1日も休まずゴミ拾いを続け、道路の愛護、美化保全に努めたとして国土交通大臣賞や道路功労賞も受賞した実績がある。これは、花壇コンクール入賞常連組のリフレッシュクラブと共に行っているもので、連合会の副会長も務める中会長も、「うちの自慢は街が本当に綺麗なこと」と誇らしげだ。「暮に実施する夜回りに小学生が沢山参加してくれることも特徴の一つです。ただ、中学生になると参加が減って残念なんですけれどね。」箱根駅伝で優勝した、青学の陸上部もよくランニングで走るエリア。優勝おめでとうの横断幕を作ったという。

「定年を過ぎて約10年、家の近くの6差路が危険なので雨の日も雪の日も休まず見守りをしているんですけど、もう身体の一部みたいで。」綺麗な街に犯罪はない。そう信じ、掲示物の管理にも目を光らせる。また、会として新たに独居老人の見回りにも取り組むたいと意気込みを見せる。孤独死が増える昨今、独居老人の情報をとっ収集するかが鍵になる。

各町内会・自治会の活動は、「交流、環境保全、防災」を目的としたものが殆どだが、具体的な内容は様々だ。色々な工夫を凝らしてはいるものの、参加人数の減少と高齢化、防災意識の欠落は共通の課題のようだ。

34の町内会と自治会で構成する町田第二地区町内会・自治会連合会。「さくら祭り」と秋の『歩こう会』が二大イベントで、太鼓演奏やよさこいの演舞、健康測定などの催しで賑わう。『さくら祭り』は今年で6回目の開催となる。『歩こう会』は800人近い参加者を2組に分け、1組は忠生公園まで歩いた後にお弁当を、もう1組は伝言ゲームやクイズ後に各町内会毎のBBQや食事会で親睦を図る。1周450mのグラウンドをぐるっと囲んで伝言ゲームをやるんですが、最後には全然違う内容になっちゃって(笑)。災害時に通信網が駄目になったことを想定してやっているとすげえだね。そう語るのは中町三丁目町内会の会長を兼務する野澤会長だ。

旭 町二丁目のゴミ拾いに刺激されて野澤会長も毎日見守りの後にゴミ拾いを行うようになった。

町内会・自治会連合会と青少

会長の野澤滋亨さん



A. 大勢の参加で賑わう「歩こう会」 B. 地区協議会で実施した一斉見守り C. 地区協議会の構成メンバー



加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262